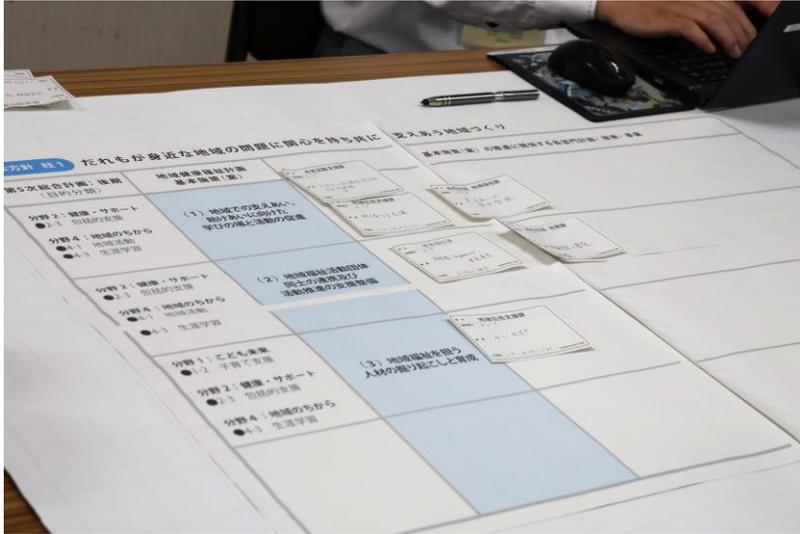


IRODORI

柏市 地域共生社会連携会議
(庁内連携会議)
報告書



地域共生社会連携会議



第1回地域共生社会連携会議に向け、以下のワーク資料の作成を行いました。

- ・各基本方針ごとの体系表
- ・各部署の事業等を記載するカード

地域共生社会連携会議当日は四部構成とし、第一部は地域共生社会連携会議の役割やこれまでの経過についての説明を行いました。

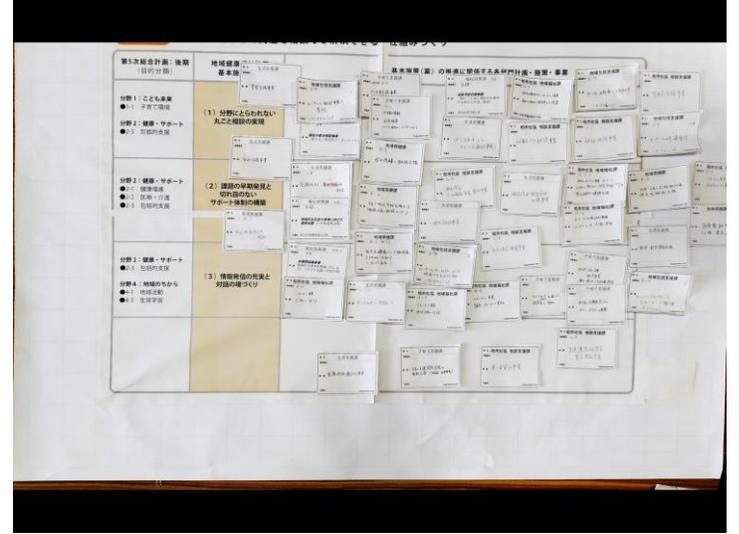
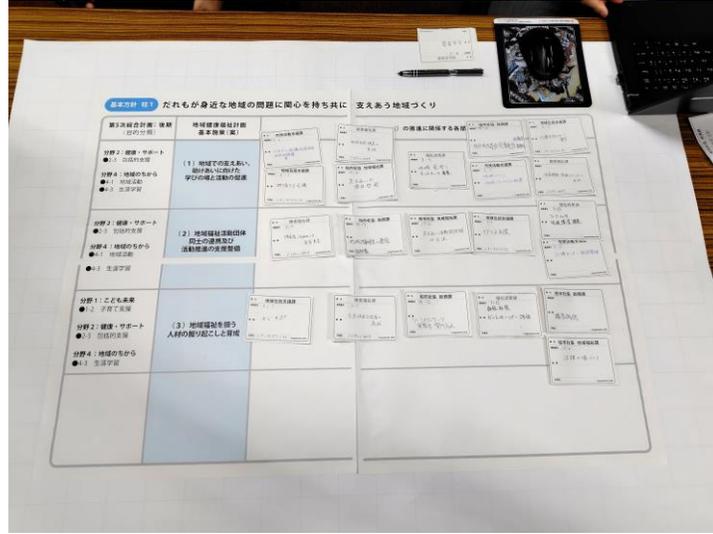
第二部では、参加者が所属する部署の事業・施策内容をカードに記載し、グループ内で共有を行いました。

各部署の事業の情報共有の重要性を感じるという意見が多く上がりました。

第三部では第二部で作成したカードを各基本方針ごとに施策案を記載した体系表に紐づけていきました。

このワークを行うことで、施策案ごとに紐づく事業の有無を確認し、施策案修正の必要性を検討します。

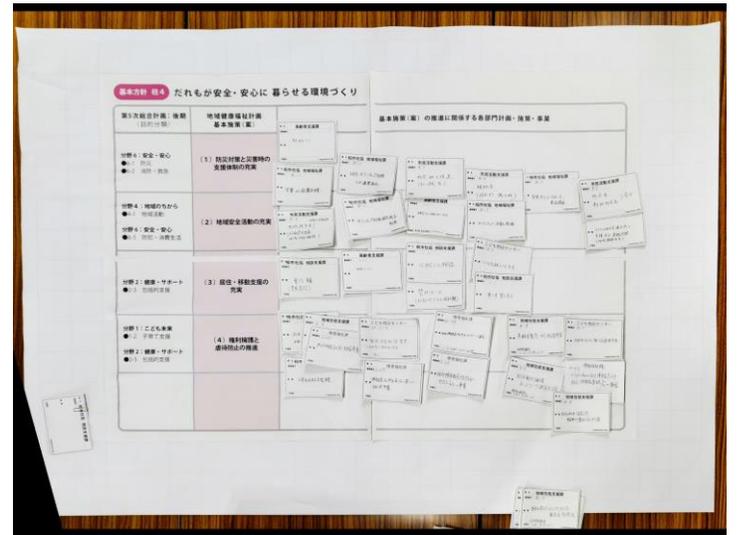
施策の実施状況（第1回地域共生社会連携会議）



基本方針 柱1

基本方針 柱2

第四部では、ワールドカフェを実施し第三部までに各グループで話した内容を他のグループに共有し、質疑を行いました。その後各グループに戻り、それぞれのグループの情報共有を行いました。



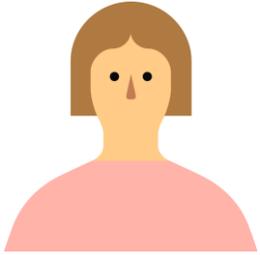
基本方針 柱3

基本方針 柱4

施策の実施状況（第1回地域共生社会連携会議）

■5月8日（水）タイムスケジュール

| 時間 | スケジュール | 目安配分 | 詳細 | 担当 | スタッフの動きなど | 備考 |
|-------|-----------|------|---|---------------|-----------|--------------------------|
| 10:00 | 挨拶 | 5分 | ・福祉政策課長よりご挨拶 | 福祉政策課 虻川課長 | | |
| 10:05 | はじめに | 10分 | ・昨年度から作成している地域健康福祉計画についての説明 ・地域共生社会連携会議についての説明 →第一回目、第二回目で基本方針と改定後の基本施策を決める | 福祉政策課 | | |
| 10:15 | アイスブレイク | 10分 | ワガママ・トーク | | | |
| 10:25 | 本日のワークの説明 | 10分 | ・本日の目的+ワークの説明（整理の方法） →総合計画、地域健康福祉計画、原課の事業や施策との紐付け | 谷津・荒尾 | | 地域共生社会連携会議の活かし方について説明する。 |
| 10:35 | 個人ワーク | 15分 | 1) 配布されたカードに現在、自分が取り組んでいる事業や施策を記入（5分） 2) グループで共有（5分） 3) 他の人のアウトプットを参考にして追加で記入する（5分） | | | グループ人数：1テーブル8名 |
| 10:50 | グループワーク | 30分 | ■政策体系図がグループに1枚ずつある状態 1) 個人で記入したカードを施策に紐づける（20分） ・自分で記入した事業や施策を簡単に説明してカードを置いていく 2) グループでワークにおける気づきや学びの共有（10分） | | 福祉政策課はメモ係 | |
| 11:20 | ワールドカフェ | 25分 | 1) テーブルに1人残して、他のメンバーは自分以外のテーブルでどんなワーク結果になったのかを聞きにいく。残った1名は他のグループから来た人に説明。3回実施（5分×3） 2) テーブルに戻ってきて個人の感想をシェア ・気づき、学び、驚き、課題感 | | | ※グループのカードの紐づけは福祉政策課で整理する |
| 11:45 | 振り返り | 15分 | ・全体での振り返り ・アンケート依頼 ・次回の案内 | | | |
| 12:00 | | | | | | |

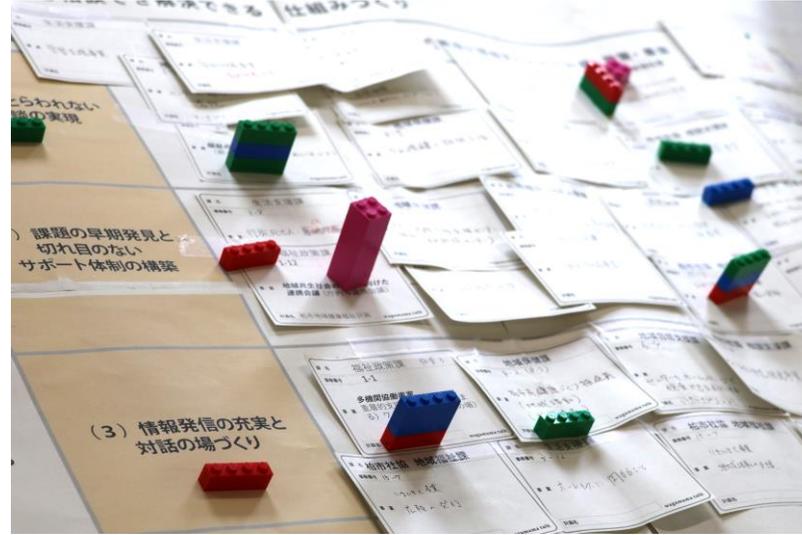


(施策案との紐づけについて) どこにも当てはまらない事業がもっと多いと思っていたが、意外とどこかの施策に当てはまった印象。



複合的な悩み・相談の面で、自分の事業と他部署の事業の繋がりを再認識した。

- 現場の人間が各支援事業を知らないがひとつの課題。知識を身に着ける環境があればよいと思った。
- 社協は行政とつながりがあるものの、細かい事業の内容までは知らないのでよい機会だった。いい繋がりがもてた。
- 柱で分けると縦割りになるため、重なる面、繋がる面を計画の部分も表記できたらよい。
- 相談窓口の充実では、社協の心配ごと相談や福祉政策課のあいネット等相談窓口の話がたくさんあった。
- 支援方法を用意するだけでなく、対象者の気持ち大切にすることが必要ではないか。対象者が求める支援と柏市が用意できる支援を上手くマッチングさせることが必要。
- 将来的には地縁組織に頼る地域福祉は厳しいと思う。ただ、ボランティアをやりたいなどの個人ニーズがあるので、そこをどうサポートするか。その体制を作り上げていくことが大事。



第2回の地域共生社会連携会議は、第1回会議のワークで作成した体系表を利用して行いました。参加者それぞれが、体系表の中に挙げられた事業の中で今後特に重要と思われるものを3つピックアップし、その理由を共有しました。また、重要と選ばれた事業の担当部署の参加者が、事業概要や課題感を説明し、理解を深めました。

次に、説明を聞いたうえで再度特に今後重要と考えられる事業を1つ投票しました。レゴブロックを利用しているため、投票数が多いとブロックが積みあがっていきます。投票結果も参考にしながら、重点施策を検討していきます。

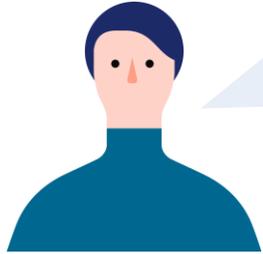
最後に、これまでのワークを通じて施策案に追加すべき視点がないかを検討しました。出された意見をもとに、状況に合った施策案に修正していきます。

施策の実施状況（第2回地域共生社会連携会議）

■5月22日（水）タイムスケジュール

| 時間 | スケジュール | 目安配分 | 詳細 | 担当 | スタッフの動きなど | 備考 |
|-------|----------|------|---|---------|-----------------------------------|----|
| 10:00 | 挨拶 | 5分 | ・福祉政策課よりご挨拶 | 福祉政策課 | | |
| 10:05 | 前回の振り返り | 15分 | ・模造紙を眺めながら各自前回のワークについて、2週間の間考えたことやこんなことやりたいなどを述べる | IRODORI | | |
| 10:20 | 本日の狙いの説明 | 5分 | 基本方針の達成に向けて現状の事業の課題感をワークで共有し合うという目的を伝える | IRODORI | | |
| 10:25 | ワーク | 90分 | <ul style="list-style-type: none"> ・レゴブロックを配布 ・基本方針の達成に向けて重要だと思うカードに自分の持っているブロックを置く ・それぞれがブロックを置いたカードを選んだ理由について共有する ・選ばれたカードを書いた担当者が今の現状の事業状況と課題感を説明する ・新規で必要だと思った視点や取り組みのディスカッションをする ・全部のカードの説明を聞いた後に再投票を行う ・全体にグループのワーク結果を共有 <p>※注意したい視点 基本方針達成に向けた理由になっているかどうかをファシリテーターが伝える</p> | IRODORI | ※福祉政策課職員のみなさまに前回同様メモを取っていただきたいです。 | |
| 11:55 | おわりに | 5分 | 今後のスケジュールの案内 | 福祉政策課 | | |
| 12:00 | | | | | | |

重要な事業だと考えた理由

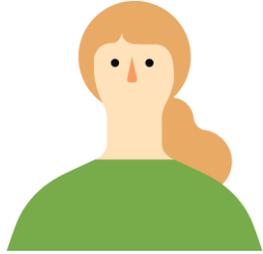


悩みを打ち明けられる場所，潜在的な相談を含めて表面化させる場所が必要。福祉分野だけでなく，なんでも相談ができる場所をつくりたい。



安全安心というところは，市の職員だけでは絶対に無理で，防災や防犯という部分を保障していくには，人を育てないといけないし，拠点になるところもしっかりしていないと何もできないのではないかな。

- 障害者団体の活動について，連携や推進ができればよい。
- 地域でできることは地域で実施していきたいが，難しいことについては企業のお力を発揮していただけるような関係づくりをしていきたい。
- 地域づくりコーディネーター等を育成していくことで硬直化していく組織等の課題解決に繋げていきたい。
- 職員が実力底上げすることで体制整備やいきいきセンター等の取組がさらに充実することが期待できる。
- 分野にとらわれない相談窓口を行うために，体制を整える必要がある。
- 相談支援機関の横のつながりがあれば，もっと支援が充実するかもしれない。
- 窓口での相談が難しい方に対して，誰でも相談できる場所が重要。
- （フレイル予防について）市民の主体的な活動が必要。
- 一つ一つ寄り添っていく支援が必要。
- 何かあった時に地域の中で助け合っていくということが大切。
- 災害時に自主避難が難しいかたや配慮を要するかたを取りこぼさないことが必要。
- K - N e t は登録制なので，取りこぼしは出る。要支援のかたについては，個別避難計画計画を立てないと，災害時に漏れてしまうためどちらも必要。

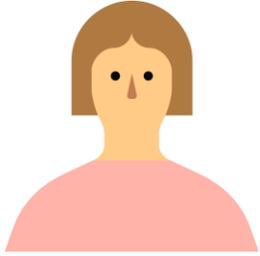


個人が持っている目的だったりニーズだったりというところを担い手確保にまで繋げるかと考えると「地域」という視点だけでは苦しいのではないか。



「安全・安心して暮らせる環境づくり」という目で見るときに、長期的に見るとその方が自分で稼いで生活していく支援となる「就労支援」という視点も必要なのではないか。

- 地域福祉を担う人材の掘り起こしと育成について、民生委員の話も含め担い手を確保するということは大事
- 柱1の施策案について、(2)では「地域福祉活動団体同士の～」としているが、プレーヤーを団体に制限する必要はなく、企業や社会福祉法人、NPO等にアプローチしていくことも必要だと思う。
- 分野にとらわれない・サポート体制も、福祉分野以外の部分もある。「福祉」に関わりがないと思っている方への参加・知る機会の充実が必要ではないか。
- ハイティーン（16～18歳）の高校中退したかたへの支援が薄い。不登校でほとんど学校に行けておらず、引きこもり予備軍のような子たちへも勉強か就か何か支援の視点を入れることができないか。



高齢者・障害者・子どもが住みやすい街が、結果誰にでも住みやすい街だと思うので、そういう視点で考えられるといいな、と改めて思った。



自分の事業だけでなく、いろいろな面での支援や話を聞くことで、今と未来に必要な事業がなんなのかを広い目線で考えることができ、現状の整理や選択をしていけるなと改めて感じた。

- 今後のモチベーション向上につながった。
- いろんな事業をかさねて始めて地域づくりの取り組みが推進できるのではないかと感じた。
- 福祉分野は線引きが難しい。福祉以外の部署にもこの計画を知ってもらいたい。
- 福祉の事業は難しい。市民が幸せになるためにまず職員自身が楽しく働くことが大切。
- 基本施策に掲げている「誰もが安心安全に暮らせる街」につながる計画になるといいなと思います。
- 前は個別に事業を出していったことで、個々の事業について知ることはできましたが、今回は更に掘り下げて話を聞くことで、高齢者や障害者・児童と対象や視点は別で、事業名も異なるけれども、同じような目的で取り組んでいることが分かり、リンクしているということが分かりました。